

# 個別学習支援における教科の 言葉の説明の仕方

---

柳川瀬真衣(関西学院大学)

# はじめに

---

地域の教室では日本語支援、教科支援が行われている。

➡支援者が子どもに言葉を説明する活動が頻繁にみられる。

# 支援現場をフィールドとした言葉の説明に関する先行研究

---

- ・唐木澤(2023)

支援者へのインタビュー調査: 例えを用いて説明すること

- ・筒井(2012)

支援者が言葉を説明する際の音声談話データを分析

支援経験の少ない支援者は一方的な説明に終始するなど

支援者の持つ知識、支援経験の長さによって説明の仕方に違いがあることを指摘

➡ **支援者が用いる方略**を明らかにした点で意義がある

# 先行研究の課題

---

- ・唐木澤(2023) インタビュー調査

説明活動のその場固有のやりとりの中に現れる言語化できない  
支援者の振る舞い方は明らかにできない

- ・筒井(2012) 音声談話データの分析

支援経験という支援者の属性を前提にデータを分析し、一方的な説明に終始すると支援方法を批判的に記述しているが、そもそもなぜ  
支援者は言葉の説明をし続けるのか分析していない

# 先行研究の課題の解決

---

- これらの研究は支援者のみに視点を当てており、説明活動時の子どもの振る舞いは分析されていない。しかし、学習支援活動は、支援者のみで成立するものではなく、子どもの反応があって初めて成立する活動である。子どもと支援者の相互行為(やりとり)を記述することで、先行研究の課題を克服
  - ➡ その都度の子どもと支援者の振る舞いを記述し、支援者は**なぜそう振る舞うか** 解明する必要がある。
  - ➡ 相互行為を分析する**会話分析**を研究の方法論とする

# 会話分析とは

---

人々の会話を詳細に書き起こし、その発話や非言語行動が行われたタイミングとその構成を分析することで、人々は**なぜ今その振る舞いをするのか**、どのような**行為**を行っているのかを記述する方法論

- ➡直前の相手の振る舞いは受け手にとってどう理解可能なのか、相手の振る舞いを受けて、どう振る舞っているのかを分析
- ➡会話の中で人々自身が行っていることを記述

# 注目する現象

---

言葉が分からないがゆえ、今取り組んでいる課題を前に進めることができない、問題を解けない

- ➡ 子どもが支援者に援助を求め、それに対し支援者が言葉を説明する
- ➡ 言葉の説明を聞いて、一度で子どもがわからなかったことが解決できるとは限らない
- ➡ 支援者が言葉を説明した一度言葉の意味を説明するやりとりを終えた後、支援者が説明を再度行う

# 研究目的

---

なぜ今支援者は説明を再度行うのか、  
子どもと支援者の相互行為から解明

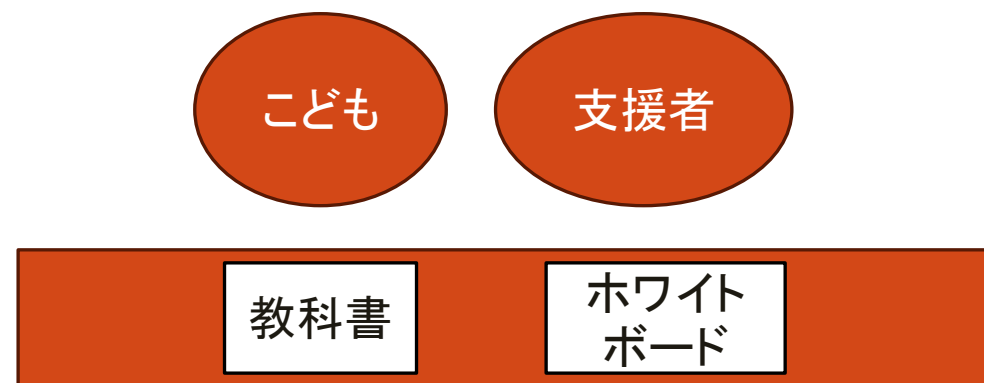


# 調査フィールド

---

関西の地域の学習支援教室Aでの子どもと支援者の  
個別学習支援活動の会話を分析

子どもと支援者が横に並んで座り、子どもが持ってきた学校の教科書や宿題を共有しながら活動を進めている。



# データ

---

データ収録期間：2021年8月～2022年1月

データ概要：約70時間分の学習支援の様子を録画

調査協力者：5歳から15歳までの子ども6名

大学生、元学校教員、主婦等の支援者10名

# 分析: 知的財産権

CとSは教科書を見ながら社会科の勉強をしている。今開けているページの学習項目の勉強のほとんどを終えている。Cが今までの学習項目が理解できたことを確認した後、Cは社会科「知的財産権」の教科書コラムを「わかりません」という。それに対し、支援者(S)が知的財産権の意味を説明している最中のやりとり。



教科書 イメージ図

# 書き起こし記号

記号	説明	記号	説明
[	発話の重なり	./,/?/ε	語尾が下降/少し下降/上昇/ 少し上昇
=	発話の密着	↑/↓	音調の極端な上昇/極端な下降
(数字)	沈黙の秒数	c動	Cの動作
(.)	0.2秒以下の短い間合い	c視	Cの視線
文字:	音の引き延ばし	S動	Sの動作
文字-	言葉が不完全なまま途切れる	S視	Sの視線
h/.h	呼気音または笑い/吸気音	*/+--->	動作の開始
<u>文字</u>	音が強い	--->*/+	動作の終了
°文字°	音が小さい	@/%--->	視線の開始
<文字>	遅く話している	---->@/%	視線の終了
>文字<	早く話している	>>----> ----->>	断片前から継続断片後まで 継続

# 分析

---

01 S : もともとと作\$家の人<sup>が</sup>考えたこと<sup>や</sup>から :

c<sup>視</sup>

**\$Sから教科書「知的財産権」下部へ→**

c<sup>動</sup>

>> 右手は頭の上、左手は机の下----->

s<sup>視</sup>

>> C----->

Sの説明を聞きつつ、  
教科書を見ている

( (9行省略。sは「知的財産権」の説明を続ける) )

# 分析

11 S: >だから<そういうのを:, <知的+財産\$ 権>って[いう.]+\$

S<sub>動</sub>

+Cをのぞきこむ----->+

C<sub>視</sub>

\$S----->\$

12 C:

[はい.]

13 S: +うん.\*

S<sub>動</sub> +上体を引き、Cとの距離を離す->

「だから」: 今までの説明の帰結  
「そういう」: 今までの説明を「そ  
う」と指示詞を用いて示す  
「知的財産権」: 今までの説明し  
てきた語彙を発話

➡今までの説明をまとめるもの  
として聞こえる。

# 分析

---

11 S : >だから<そういうのを :, <知的+財産\$ 権>って [いう.] +\$

s<sup>動</sup>

+Cをのぞきこむ----->+

Cの反応を要求

c<sup>視</sup>

\$S----->\$

12 C :

[はい.]

13 S : +うん.\*

s<sup>動</sup> +上体を引き、cとの距離を離す->

# 分析

11 S : >だから<そういうのを : , <知的+財産\$ 権>って [いう.] +\$

S<sub>動</sub>

+Cをのぞきこむ----->+

C<sub>視</sub>

\$S----->\$

12 C :

[はい.]

13 S : +うん.\*

S<sub>動</sub> +上体を引き、Cとの距離を離す->

Sの説明を**受け取る**。

CはSの顔を見ることで、教科書を見る活動から離れることを示す

SがCの顔を覗き込んで行う**反応の要求に応えることを身体的に示す**。



# 分析

11 S : >だから<そういうのを : , <知的+財産\$ 権>って [いう.] +\$

s<sub>動</sub>

+Cをのぞきこむ----->+

c<sub>視</sub>

\$ S----->\$

12 C :

[はい.]

13 S : +うん.

s<sub>動</sub> +上体を引き、Cとの距離を離す->

Cの発話を**受け取る**。

Sは、Cが説明を受け取り、**やりとりを完了させたことを**

**「うん」と承認**することで、自分はい以上言うことがないことを示す。

Sは上体を引きCと距離をとることで、身体的にもこれ以上やりとりを  
続け**ないことを示す**。

# 分析

---

11 S : >だから<そういうのを : , <知的+財産\$ 権>って [いう.] +\$

s<sub>動</sub>

+Cをのぞきこむ----->+

c<sub>視</sub>

\$ S----->\$

12 C :

[はい.]

13 S : +うん.

s<sub>動</sub> +上体を引き、Cとの距離を離す->

➡この時点でCとSは、CとSは一連の説明のやりとりを収束させる。

# 分析

---

13 S : +うん.\*

s<sup>動</sup> +上体を引き、cとの距離を離す->

14→ \$(0.6)

c<sup>視</sup> \$ 教科書「知的財産権」下部を見る->

15 S : 頭の中で考えたこと; アイデア? そういうもの↑を : 勝手に?

ここは、Cが教科書のページをめくるなど**次の行動に進んでもいいタイミング**である。しかし、Cは手の配置を変えず、Sが言葉の説明をしている最中と同じ身体配置を維持する。

# 分析

---

13 S : +うん.\*

s<sup>動</sup> +上体を引き、cとの距離を離す→

14→ \$(0.6)

c<sup>視</sup> \$ 教科書「知的財産権」コラムを見る→

15 S : 頭の中で考えたこと; アイデア? そういうもの↑を : 勝手に?

①Cが次の行動に移らない。

②視線をSによる言葉の説明時と同じ教科書「知的財産権」コラムへ移動させ、教科書を読むようなしぐさ。

➡Sにとって、Cが次の行動に移れない、すなわち教科書「知的財産権」の理解に何か問題が生じている可能性があるとして理解可能である。

# 分析

13 S : +うん.\*

S<sub>動</sub> +上体を引き、Cとの距離を離す->

C<sub>動</sub> ----->\*

14→ \$ (0.6)

C<sub>視</sub> \$ 教科書「知的財産権」下部を見る->

Sは再度援助をすることで、Cが「知的財産権」の理解というCが直面している分からなさをまだ十分に解決できていない可能性に志向。15行目で説明を再度行うことでCが直面しているであろう問題に対処する

15 S:頭の中で考えたこと&アイデア? そういうもの↑を:勝手に?

## 示唆されること

支援者は子どもの身体的な振る舞いを観察し、説明連鎖収束後子どもが次の行動に進むかに敏感な形で再度の援助を行っている

# 結論

---

支援者は説明が終わった後、子どもは次の行動に進まないことを身体的に示す。

このような身体的なふるまいは、支援者にとって、子どもは自分が直面している分からなさをまだ十分に解決できていないと理解可能。そして、その直後、支援者は再度言葉の意味を説明する。

- ➡子どもの身体的振る舞いから、子どもが困難に直面していると支援者にとって認識可能になることで、支援者が援助する機会が提供される。
- ➡子どもの身体的振る舞いは、支援者の再度の援助を引き出している。

## 示唆されること

支援者は、子どもが次の行動に進むかに敏感な形で再度の援助を行っている

# 参考文献

---

- 唐木澤みどり(2023)「外国につながる子どもの学習支援のための「やさしい日本語」—学習支援教室における「やさしい日本語」へのボランティアの意識から—」『学習院大学国際センター研究年報』第9号、pp.5-27
- 関玲・権賢貞「日本語母語話者の「Xわかる?」という質問の会話分析」『言語学論叢』オンライン版16号、pp.1-15
- 串田秀也(2008)「指示者が開始する認識探索--認識と進行性のやりくり」『社会言語科学』10巻2号、pp.96-108
- 筒井千絵(2012)「JSL生徒の支援者の経験が支援方略に与える影響—教科学習支援場面の談話分析を通して—」『フェリス女学院大学文学部紀要』47号、pp.117-127
- 西阪仰(2008)「発言順番内において分散する文：相互行為の焦点としての反応機会場」『社会言語科学』10巻2号、pp.83-95